

フランスニュースレター 4月

岐阜県庁海外戦略推進課のガエルです。フランスでのイースターを紹介したいと思います♪

NEVRUZ

岐阜県庁海外戦略推進課のセヴギです。

トルコでのネヴルーズを紹介したいと思います。

Nevruz (ネヴルーズ)は、トルコで春を迎える祭りとしてよく知られています。毎年3月21日頃に、イラン、イラク、アゼルバイジャン、アフガニスタン、トルコなどを含めて、中央アジアからアフリカまでに及ぶ広い地域で、新年と春を迎えるために3000年を超えてお祝いされてきた歴史の深い祭りです。

祝い方は国によって様々です。例えばアゼルバイジャンでは復活祭(イースター)のように卵を染めて食べる習慣があるそうです。トルコでは、近所と親戚の人と交流したり、特別なお菓子と食べ物を作って食べたり、お墓参りをしたりします。この日にするお願い事は叶うと考えられています。特徴的な習慣としては、焚き火をしてその周りで踊ったり、その上をジャンプして超えたりするものがあります。この火によって前年の悪運や病気が清められ、より良い年を迎えることができます。

Nevruzは、主としてトルコの少数民族の中で最大人口を有するクルド民族の祭りとなっています。クルド人とトルコ政府の昔からの政治的問題によって個々のお祝いは最近まで禁止され、現在もお制限的に扱われていますが、2009年にUNESCO無形文化遺産に登録されました。トルコの民族問題が続いている中で、Nevruzはクルド人のアイデンティティを主張する機会でもあり、この祭りに反政府の運動が伴うことも多いです。

パック

Pâques・イースター



元々、Pâquesというのはキリスト教の最も大切な祝日で、イエス・キリストの復活を記念して祝います。Pâquesは春分後の最初の満月の次の日曜日に行われますので、その日にちは年によって変わります。翌月曜日は「イースターマンデー」という祝日になります。フランス国憲法によって、キリスト教と国家の分離が1905年から制定されているのですが、フランスの祝日と伝統行事は現在でもキリスト教由来のものが多いです。しかし、現在は宗教的な意味が薄くなり、無宗教の人でもイースターを祝います。

☆フランス人はどうやってイースターを祝いますか？

キリスト教徒は復活祭までの40日間(日曜日を含めない)、四旬節をします。これは斎戒や節制や断食などをする期間です。イースターの前の金曜日は「聖金曜日」と呼ばれていて、その日にお肉を食べてはいけません。厳格に四旬節を行う人は少ないですが、一般のキリスト教徒は普段好きな食べ物の飲食を控えます。例えばチョコレート、お酒、お肉などです。教会の鐘は聖金曜日から日曜日まで、キリストの死を悼んで鳴りません。その3日間、鐘はローマへ旅立ち、イースターの卵で中を一杯にして、空から卵を落としながら戻るという伝説があります。

そして、再び教会の鐘が鳴ると、子供たちは鐘から落とされたイースターエッグを探しに行きます。

キリスト教徒でも無宗教の人でもイースターの日に家族と一緒に祝って、日曜日に大人が庭にイースターエッグを隠して、子供が卵探しをします。庭がなくても、鐘は室内まで響くらしいので安心してください！また、大人になってもこの日にチョコレートをもらいます。子供たちにとって、イースターはチョコレートをたくさん食べられる日なのでとても人気です。フランスのパン屋さんやお菓子屋さん、スーパーなどは3月から卵、ウサギ、にわとり、鐘の形をしたチョコレートの販売が始まります。

